

平成22年度 財政状況資料集

総括表（市町村）

都道府県名		宮崎県		市町村類型	Ⅳ－１		指定団体等の指定状況		区分	平成22年度(千円)	平成21年度(千円)	区分	平成22年度(千円・%)	平成21年度(千円・%)
市町村名		都城市		地方交付税種地	1-4		財政健全化等	×	歳入総額	75,076,877	72,201,944	実質収支比率	2.7	2.7
							歳出総額	×	歳入歳出差引	72,567,852	70,937,765	経常収支比率	85.7	90.6
							財源超過	×	翌年度に繰越すべき財源	2,509,025	1,264,179	(※1)	(93.9)	(96.2)
							首都	×	実質収支	1,377,296	167,986	標準財政規模	42,452,038	40,994,053
							近畿	×	単年度収支	1,131,729	1,096,193	財政力指数	0.50	0.52
							中部	×	積立金	35,536	5,971	公債費負担比率	19.5	20.7
人口		22年国調(人)	169,602 <th colspan="3">産業構造</th> <th>過疎</th> <th>○</th> <th>繰上償還金</th> <td>551,274</td> <td>549,601</td> <th>健全化判断比率</th> <td></td> <td></td>	産業構造			過疎	○	繰上償還金	551,274	549,601	健全化判断比率		
		17年国調(人)	170,955 <th colspan="3"></th> <th>山振</th> <th>○</th> <th>積立金取崩し額</th> <td>522,863</td> <td>549,601</td> <th>実質赤字比率</th> <td>-</td> <td>-</td>				山振	○	積立金取崩し額	522,863	549,601	実質赤字比率	-	-
		増減率 (％)	-0.8 <th>区分</th> <th>17年国調</th> <th>12年国調</th> <th>低開発</th> <th>○</th> <th>実質単年度収支</th> <td>956,123</td> <td>528,834</td> <th>連結実質赤字比率</th> <td>-</td> <td>-</td>	区分	17年国調	12年国調	低開発	○	実質単年度収支	956,123	528,834	連結実質赤字比率	-	-
住民基本台帳人口		23.03.31(人)	170,969 <th rowspan="2">第1次</th> <td>9,715</td> <td>10,307<th>指数表選定</th><th>○</th><th>基準財政収入額</th><td>15,312,609</td><td>16,012,462</td><th>実質公債費比率</th><td>11.2</td><td>12.0</td></td>	第1次	9,715	10,307 <th>指数表選定</th> <th>○</th> <th>基準財政収入額</th> <td>15,312,609</td> <td>16,012,462</td> <th>実質公債費比率</th> <td>11.2</td> <td>12.0</td>	指数表選定	○	基準財政収入額	15,312,609	16,012,462	実質公債費比率	11.2	12.0
		22.03.31(人)	171,506 <td>12.0</td> <td>12.5<th></th><th></th><th>基準財政需要額</th><td>31,822,373</td><td>31,782,842</td><th>将来負担比率</th><td>36.6</td><td>52.4</td></td>		12.0	12.5 <th></th> <th></th> <th>基準財政需要額</th> <td>31,822,373</td> <td>31,782,842</td> <th>将来負担比率</th> <td>36.6</td> <td>52.4</td>			基準財政需要額	31,822,373	31,782,842	将来負担比率	36.6	52.4
		増減率 (％)	-0.3 <th rowspan="2">第2次</th> <td>21,474</td> <td>23,546<th></th><th></th><th>標準税収入額等</th><td>19,570,869</td><td>20,455,755</td><th colspan="3" rowspan="5">資金不足比率（※3）</th></td>	第2次	21,474	23,546 <th></th> <th></th> <th>標準税収入額等</th> <td>19,570,869</td> <td>20,455,755</td> <th colspan="3" rowspan="5">資金不足比率（※3）</th>			標準税収入額等	19,570,869	20,455,755	資金不足比率（※3）		
面積 (km ²)		653.31 <th></th> <td>26.4</td> <td>28.6<th></th><th></th><th>経常経費充当一般財源等</th><td>37,098,775</td><td>37,138,767</td></td>			26.4	28.6 <th></th> <th></th> <th>経常経費充当一般財源等</th> <td>37,098,775</td> <td>37,138,767</td>			経常経費充当一般財源等	37,098,775	37,138,767			
人口密度 (人/km ²)		260 <th rowspan="2">第3次</th> <td>49,519</td> <td>48,429<th></th><th></th><th>歳入一般財源等</th><td>50,604,787</td><td>47,429,983</td></td>	第3次	49,519	48,429 <th></th> <th></th> <th>歳入一般財源等</th> <td>50,604,787</td> <td>47,429,983</td>			歳入一般財源等	50,604,787	47,429,983				
世帯数 (世帯)		69,856 <th></th> <td>60.9</td> <td>58.8<th></th><th></th><th></th><td></td><td></td></td>			60.9	58.8 <th></th> <th></th> <th></th> <td></td> <td></td>								
職員の状況														
特別職等	区分		定数	1人あたり平均給料月額(百円)	一般職員等	区分	職員数(人)	給料月額(百円)	1人あたり平均給料月額(百円)	地方債現在高	78,267,544	80,174,990 <th colspan="2"></th>		
	市区町村長		1	9,400 <th>一般職員</th> <td>1,323</td> <td>4,338,117</td> <td>3,279<th>うち公的資金</th><td>53,935,215</td><td>55,287,603<th colspan="2"></th></td></td>		一般職員	1,323	4,338,117	3,279 <th>うち公的資金</th> <td>53,935,215</td> <td>55,287,603<th colspan="2"></th></td>	うち公的資金	53,935,215	55,287,603 <th colspan="2"></th>		
	副市区町村長		2	7,150 <th>うち消防職員</th> <td>176</td> <td>544,720</td> <td>3,095<th>債務負担行為額（支出予定額）</th><td>18,233,695</td><td>4,707,809<th colspan="2"></th></td></td>		うち消防職員	176	544,720	3,095 <th>債務負担行為額（支出予定額）</th> <td>18,233,695</td> <td>4,707,809<th colspan="2"></th></td>	債務負担行為額（支出予定額）	18,233,695	4,707,809 <th colspan="2"></th>		
	収入役		-	- <th>うち技能労務職員</th> <td>84</td> <td>283,416</td> <td>3,374<th>収益事業収入</th><td>-</td><td>-<th colspan="2"></th></td></td>		うち技能労務職員	84	283,416	3,374 <th>収益事業収入</th> <td>-</td> <td>-<th colspan="2"></th></td>	収益事業収入	-	- <th colspan="2"></th>		
	教育長		1	6,750 <th>教育公務員</th> <td>19</td> <td>77,314</td> <td>4,069<th>土地開発基金現在高</th><td>1,741,097</td><td>2,591,968<th colspan="2"></th></td></td>		教育公務員	19	77,314	4,069 <th>土地開発基金現在高</th> <td>1,741,097</td> <td>2,591,968<th colspan="2"></th></td>	土地開発基金現在高	1,741,097	2,591,968 <th colspan="2"></th>		
	議会議長		1	5,000 <th>臨時職員</th> <td>-</td> <td>-</td> <td>-<th>積立金</th><td>3,781,984</td><td>3,781,984<th colspan="2"></th></td></td>		臨時職員	-	-	- <th>積立金</th> <td>3,781,984</td> <td>3,781,984<th colspan="2"></th></td>	積立金	3,781,984	3,781,984 <th colspan="2"></th>		
	議会副議長		1	4,200 <th>合計</th> <td>1,342</td> <td>4,415,431</td> <td>3,290<th>減債基金</th><td>4,419,233</td><td>4,151,752<th colspan="2"></th></td></td>		合計	1,342	4,415,431	3,290 <th>減債基金</th> <td>4,419,233</td> <td>4,151,752<th colspan="2"></th></td>	減債基金	4,419,233	4,151,752 <th colspan="2"></th>		
	議会議員		32	4,000 <th>ラスバイレス指数</th> <td></td> <td></td> <td>97.7</td> <th>現在高</th> <td>14,213,438</td> <td>12,106,082<th colspan="2"></th></td>		ラスバイレス指数			97.7	現在高	14,213,438	12,106,082 <th colspan="2"></th>		
一般会計等の一覧														
項番		会計名	事業会計の一覧		公営企業（法適）の一覧		公営企業（法非適）の一覧		関係する一部事務組合等一覧		地方公社・第三セクター等一覧			
			項番	会計名	項番	会計名	項番	会計名	項番	組合等名	項番	団体名	(※2)	
(1) 一般会計			(4)	国民健康保険特別会計（事業勘定）	(9)	水道事業会計	(10)	都城市食肉センター特別会計	(20)	宮崎県市町村総合事務組合（交通災害共済事業）	(24)	都城森林組合		
(2) 都城市整備墓地特別会計			(5)	国民健康保険特別会計（診療施設勘定）			(11)	都城市下水道事業特別会計	(21)	宮崎県自治会館管理組合	(25)	都城市土地開発公社		
(3) 都城市都市開発資金特別会計			(6)	後期高齢者医療特別会計			(12)	都城市公設地方卸売市場事業特別会計	(22)	宮崎県後期高齢者医療広域連合（一般会計）	(26)	社会福祉法人 常陽社会福祉事業団		
			(7)	老人保健特別会計			(13)	都城市農業集落下水道事業特別会計	(23)	宮崎県後期高齢者医療広域連合（事業会計）	(27)	財団法人 都城圏域地場産業振興センター		
			(8)	介護保険特別会計			(14)	都城市御池簡易水道事業特別会計			(28)	財団法人 都城市文化振興財団		
							(15)	都城市簡易水道事業特別会計			(29)	都城まちづくり 株式会社		
							(16)	都城市電気事業特別会計			(30)	株式会社 レイク観音		
							(17)	都城市山之口総合交流活性化センター特別会計			(31)	道の駅山之口 株式会社		
							(18)	都城市高城健康増進センター等管理事業特別会計			(32)	青井岳温泉 株式会社		
							(19)	都城市工業用地造成事業特別会計			(33)	高崎町星の郷総合産業 株式会社		
											(34)	株式会社 くえびこ山田		

(注釈)
※1：経常収支比率の()内の数値は、「減収補填債（特例分）」及び「臨時財政対策債」を除いて算出したものである。
※2：地方公共団体が損失補填等を行っている出資法人で、健全化法の算出対象となっている団体については、「地方公社・第三セクター等」の団体名に○印を付与している。
※3：資金不足比率欄には、資金が不足している会計のみ記載している。

(1) 普通会計の状況（市町村）

歳入の状況（単位 千円・％）				
区分	決算額	構成比	経常一般財源等	構成比
地方税	17,841,735	23.8	16,895,223	42.8
地方譲与税	1,160,767	1.5	1,160,767	2.9
利子割交付金	54,106	0.1	54,106	0.1
配当割交付金	9,373	0.0	9,373	0.0
株式等譲渡所得割交付金	4,163	0.0	4,163	0.0
地方消費税交付金	1,635,659	2.2	1,635,659	4.1
ゴルフ場利用税交付金	26,314	0.0	26,314	0.1
特別地方消費税交付金	-	-	-	-
自動車取得税交付金	182,721	0.2	182,721	0.5
軽油引取税交付金	-	-	-	-
地方特例交付金	269,541	0.4	269,541	0.7
児童手当及び子ども手当特例交付金	160,400	0.2	160,400	0.4
減収補填特例交付金	109,141	0.1	109,141	0.3
地方交付税	21,976,377	29.3	19,116,526	48.4
普通交付税	19,116,526	25.5	19,116,526	48.4
特別交付税	2,859,851	3.8	-	-
（一般財源計）	43,160,756	57.5	39,354,393	99.6
交通安全対策特別交付金	44,416	0.1	44,416	0.1
分担金・負担金	1,590,711	2.1	-	-
使用料	885,724	1.2	62,889	0.2
手数料	201,132	0.3	-	-
国庫支出金	9,843,296	13.1	-	-
国有提供交付金（特別区財調交付金）	8,437	0.0	8,437	0.0
都道府県支出金	5,953,493	7.9	-	-
財産収入	343,162	0.5	33,207	0.1
寄附金	142,787	0.2	-	-
繰入金	1,863,013	2.5	-	-
繰越金	1,264,179	1.7	-	-
諸収入	2,737,328	3.6	2,173	0.0
地方債	7,038,443	9.4	-	-
うち減収補填債（特例分）	-	-	-	-
うち臨時財政対策債	3,764,643	5.0	-	-
歳入合計	75,076,877	100.0	39,505,515	100.0

地方税の状況（単位 千円・％）				
区分	収入済額	構成比	超過課税分	
普通税	16,895,223	94.7	192,179	
法定普通税	16,895,223	94.7	192,179	
市町村民税	6,871,857	38.5	192,179	
個人均等割	215,118	1.2	-	
所得割	5,097,846	28.6	-	
法人均等割	379,376	2.1	-	
法人税割	1,179,517	6.6	192,179	
固定資産税	8,458,302	47.4	-	
うち純固定資産税	8,389,388	47.0	-	
軽自動車税	424,468	2.4	-	
市町村たばこ税	1,140,596	6.4	-	
鉱産税	-	-	-	
特別土地保有税	-	-	-	
法定外普通税	-	-	-	
目的税	946,512	5.3	-	
法定目的税	946,512	5.3	-	
入湯税	-	-	-	
事業所税	-	-	-	
都市計画税	946,512	5.3	-	
水利地益税等	-	-	-	
法定外目的税	-	-	-	
旧法による税	-	-	-	
合計	17,841,735	100.0	192,179	

区分		平成22年度		平成21年度	
徴収率 (%)	合計	97.9	93.3	97.6	92.9
	市町村民税	98.0	93.8	97.7	93.6
	純固定資産税	97.5	92.2	97.3	91.7

公営事業等への繰出		国民健康保険事業会計の状況	
合計	8,222,027	実質収支	42,033
下水道	1,706,656	再差引収支	-314,548
観光施設	248,274	加入世帯数(世帯)	28,758
と畜場	162,645	被保険者数(人)	50,236
簡易水道	104,459	保険税(料)収入額	71
国民健康保険	1,546,606	被保険者	125
その他	4,453,387	1人当り	297

歳出の状況（単位 千円・％）				
目的別歳出の状況（単位 千円・％）				
区分	決算額 (A)	構成比	(A)のうち普通建設事業費	(A)のうち充当一般財源等
議会費	338,408	0.5	-	338,405
総務費	9,037,524	12.5	1,282,465	6,693,316
民生費	24,229,584	33.4	372,603	12,150,778
衛生費	4,440,550	6.1	798,781	3,522,436
労働費	266,467	0.4	-	39,731
農林水産業費	4,486,854	6.2	1,392,182	2,882,653
商工費	3,067,960	4.2	342,565	1,284,443
土木費	5,308,976	7.3	2,267,318	3,631,957
消防費	2,462,723	3.4	195,313	2,056,630
教育費	6,377,766	8.8	2,224,263	4,190,760
災害復旧費	2,344,049	3.2	-	1,439,890
公債費	10,206,991	14.1	-	9,864,763
諸支出費	-	-	-	-
前年度繰上充用金	-	-	-	-
歳出合計	72,567,852	100.0	8,875,490	48,095,762

性質別歳出の状況（単位 千円・％）					
区分	決算額	構成比	充当一般財源等	経常経費充当一般財源等	経常収支比率
義務的経費計	37,281,191	51.4	25,514,810	24,301,315	56.2
人件費	11,876,239	16.4	10,956,261	10,689,932	24.7
うち職員給	8,000,786	11.0	7,246,979	-	-
扶助費	15,197,961	20.9	4,693,786	4,667,207	10.8
公債費	10,206,991	14.1	9,864,763	8,944,176	20.7
内 元利償還金	10,206,991	14.1	9,864,763	8,944,176	20.7
内 一時借入金利子	-	-	-	-	-
その他の経費	24,067,122	33.2	18,409,423	12,797,460	29.6
物件費	7,421,178	10.2	5,845,193	5,342,419	12.3
維持補修費	451,681	0.6	344,461	344,461	0.8
補助費等	2,775,750	3.8	2,202,591	1,281,206	3.0
うち一部事務組合負担金	13,844	0.0	13,844	13,423	0.0
繰出金	8,156,500	11.2	7,142,584	5,829,374	13.5
積立金	3,352,171	4.6	2,853,585	-	-
投資・出資金・貸付金	1,909,842	2.6	21,009	-	-
前年度繰上充用金	-	-	-	-	-
投資的経費計	11,219,539	15.5	4,171,529	-	-
うち人件費	185,717	0.3	157,457	-	-
普通建設事業費	8,875,490	12.2	2,731,639	-	-
うち補助	3,170,826	4.4	294,598	-	-
うち単独	5,440,382	7.5	2,318,859	-	-
災害復旧事業費	2,344,049	3.2	1,439,890	-	-
失業対策事業費	-	-	-	-	-
歳出合計	72,567,852	100.0	48,095,762	-	-

（注釈）
普通建設事業費の補助事業費には受託事業費のうちの補助事業費を含み、
単独事業費には同級他団体施行事業負担金及び受託事業費のうちの単独事業費を含む。

平成22年度	宮崎県都城市
--------	--------

[illegible]

公債費負担の状況（千円・％）					将来負担の状況（千円・％）				
実質公債費比率（千円・％）					将来負担比率（千円・％）				
区分	平成20年度	平成21年度	平成22年度	分母比	区分	平成20年度	平成21年度	平成22年度	分母比
元利償還金	8,774,001	9,654,979	9,286,404	25.8	将来負担額	82,746,110	80,174,990	78,267,544	217.0
満期一括償還地方債に係る年率割相当額					一般社等に係る地方債の現在高				
公営企業債の元利償還金に対する繰入金	1,613,630	1,607,368	1,590,053	4.4	債務負担行為に基づく支出予定額	1,241,348	1,122,458	1,005,489	2.8
組合等が起した地方債の元利償還金に対する負担金等					公営企業債等繰入金見込額	20,659,687	21,235,885	20,717,984	57.5
債務負担行為に基づく支出額（公債費に準ずるもの）	143,319	135,908	135,808	0.4	組合等負担等見込額				
一時借入金の利子					退職手当負担見込額	14,439,352	14,257,966	14,094,349	39.1
合計（ア）	10,530,950	11,398,155	11,012,285		設立法人等の負債額等負担見込額				
内訳	平成20年度	平成21年度	平成22年度	分母比	連結実質赤字額				
PF1事業に係るもの					組合等連結実質赤字額負担見込額				
いわゆる五省協定等に係るもの					合計（エ）	119,086,497	116,791,299	114,085,366	
国家土地改良事業・森林総合研究所等が行う事業に係るもの	131,229	131,229	131,229	0.4	充当可能財源等				
地方公務員等共済組合に係るもの					充当可能基金	21,415,051	21,225,636	22,685,541	62.9
社会福祉法人の施設建設費に係るもの					充当可能特定繰入	9,959,703	10,185,758	10,294,862	28.5
損失補償・債務保証の履行に係るもの					基準財政需要額算入見込額	67,664,857	67,258,476	67,872,202	188.2
引き受けた債務の履行に係るもの					合計（オ）	99,039,611	98,669,870	100,852,605	
その他上記に準ずるもの					将来負担比率（エ－オ）／（イ－ウ）×１００	59.1	52.4	36.6	
利子補給に係るもの	12,090	4,579	4,579	0.0					
標準財政規模	40,206,380	40,994,053	42,452,038						
算入公債費等の額	6,324,795	6,476,535	6,390,614						
分母（イ－ウ）	33,881,585	34,517,518	36,061,424						
実質公債費比率（ア－ウ）／（イ－ウ）×１００	12.4	11.2	10.0						
（3ヵ年平均）	12.3	12.0	11.2						

※平成20年度決算の元利償還金は特定財源の額を控除しており、満期一括償還地方債に係る年度割相当額は積立不足額を考慮して算定した額を含んでいる。

※地方公共団体が損失補填等を行っている出資法人で、健全化法の算出対象となっている団体については、○印を付与している。

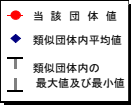
(3)市町村財政比較分析表(普通会計決算)

平成22年度

宮崎県都城市

人口	170,969人	(H23.3.31現在)
面積	653.31km ²	
歳入総額	75,076,877千円	
歳出総額	72,567,852千円	
実収支	1,131,729千円	
標準財政規模	42,452,038千円	
地方債現在高	78,267,544千円	

実収支比率	- %
連結実収支比率	- %
実公債費比率	11.2 %
将来負担比率	36.6 %
市町村類型	H18 IV-1 H19 IV-1 H20 IV-1
(年度毎)	H21 IV-1 H22 IV-1



※市町村類型とは、人口および産業構造等により全国の市町村を35のグループに分類したものである。当該団体と同じグループに属する団体を類似団体と言う。

※平成23年度中に市町村合併した団体で、合併前の団体ごとの決算に基づく実公債費比率及び将来負担比率を算出していない団体については、グラフを表記しない。

※充当可能財源等が将来負担額を上回っている団体については、将来負担比率のグラフを表記しない。

※類似団体内平均値は、充当可能財源等が将来負担額を上回っている団体を含めた加重平均であるため、最小値を下回ることがある。

※「人件費・物件費等の状況」の決算額は、人件費、物件費及び維持補修費の合計である。ただし、人件費には事業費支弁人件費を含み、退職金は含まない。

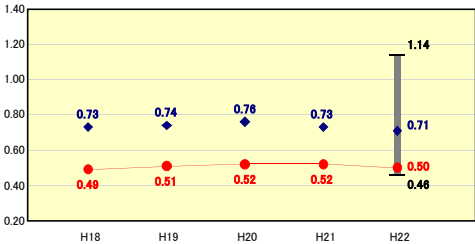
財政力

財政力指数 [0.50]

類似団体内順位 19/22

全国平均 0.53

宮崎県平均 0.35



財政力指数の分析欄

類似団体内順位では依然として下位に位置している。原因としては、依存財源が歳入の約6割を占めていることが示すとおり、地方税などの自主財源が乏しいためである。企業誘致による新たな税収の確保を通じて歳入増を図るとともに、基金繰入や起債発行に頼らずに経常的な歳入の範囲内で歳出予算を編成する「歳入先行の予算編成（予算の枠配分）」を徹底し、財政基盤の強化に努める。

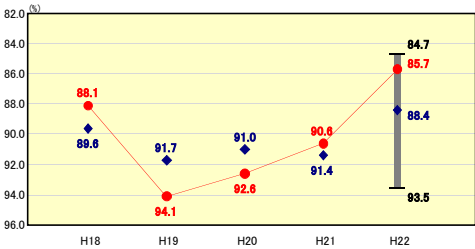
財政構造の弾力性

経常収支比率 [85.7%]

類似団体内順位 6/22

全国平均 89.2

宮崎県平均 87.4



経常収支比率の分析欄

第1次行財政改革大綱に基づく職員数削減（平成22年度までの5年間で191名削減）、公的資金・民間資金の積極的な繰上償還、新規起債発行の抑制による地方債残高の減（平成22年度末までの5年間で約111億9千万円の減）などの行財政改革の効果により、年々比率は改善している。しかし依然として危険ゾーンにあり、また今後は扶助費及び施設の維持補修費の伸びが見込まれているため、第2次行財政改革大綱に基づき、職員数削減（平成27年度までに140名削減）、民間委託等の推進、公共施設の適正配置・適正活用などに取り組む。

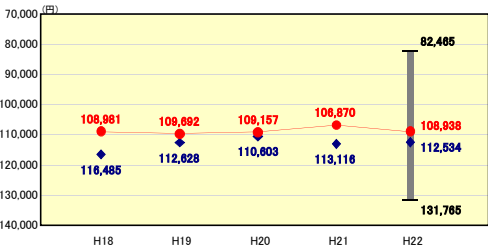
人件費・物件費等の状況

人口1人当たり人件費・物件費等決算額 [108,938円]

類似団体内順位 11/22

全国平均 114,985

宮崎県平均 118,556



人口1人当たり人件費・物件費等決算額の分析欄

人口千人当たり職員数は類似団体平均を上回っているが、人口1人当たり人件費・物件費・維持補修費の決算額は類似団体平均を下回っている。これは物件費及び維持補修費の経常的な経費の節減の効果であるといえる。しかし今後は老朽化した施設の維持補修費が伸びることが見込まれていることから、職員定数の削減により人件費を抑制することで、さらなるコスト削減を目指す。

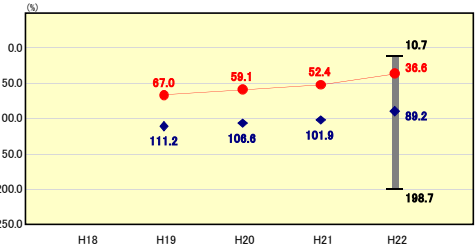
将来負担の状況

将来負担比率 [36.6%]

類似団体内順位 3/22

全国平均 79.7

宮崎県平均 77.3



将来負担比率の分析欄

前年度と比較し15.8ポイント改善し、36.6となった。改善の要因としては、職員数の削減（対前年度比▲28人）に伴う退職手当負担見込額の減（対前年度比▲164百万円）、及び地方債現在高の減（対前年度比▲1,907百万円）などの将来負担額の削減に努めるとともに、充当可能財源である基金を増額（対前年度比+1,460百万円）するなど、行財政改革を積極的に取り組んだ成果である。今後も、計画的な行財政改革を進め、健全な財政運営に努めるものである。

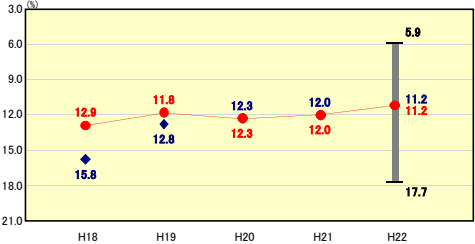
公債費負担の状況

実質公債費比率 [11.2%]

類似団体内順位 11/22

全国平均 10.5

宮崎県平均 12.5



実質公債費比率の分析欄

前年度と比較し0.8ポイント改善し、11.2となった。改善の要因としては、繰上償還等を除く元利償還金の額の減（対前年度比▲369百万円）が挙げられる。しかし、今後は清掃工場建設などの大型事業を計画しており、次年度以降は年々起債発行額が増加すると見込んでいる。大型事業以外の投資事業計画の整理・縮小を図り、新規発行市債の抑制に努め、健全な財政運営に努めるものである。

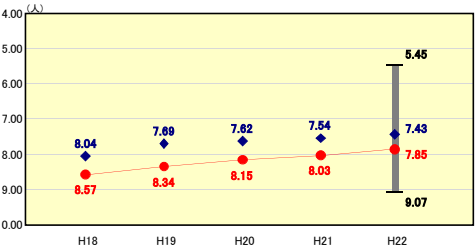
定員管理の状況

人口千人当たり職員数 [7.85人]

類似団体内順位 12/22

全国平均 7.24

宮崎県平均 7.75



人口千人当たり職員数の分析欄

平成17年度から22年度までの5年間で職員数削減の目標である140名減を大きく上回る191名減を達成したものの、依然として類似団体平均を上回っている状況である。平成22年度から27年度までの5年間でさらに140名減を目指す。

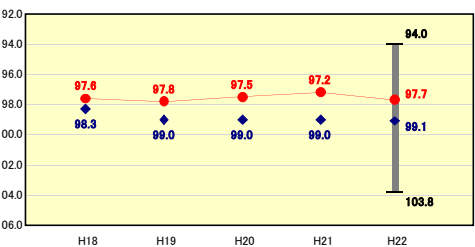
給与水準（国との比較）

ラスパイレス指数 [97.7]

類似団体内順位 5/22

全国市平均 98.8

全国町村平均 95.3



ラスパイレス指数の分析欄

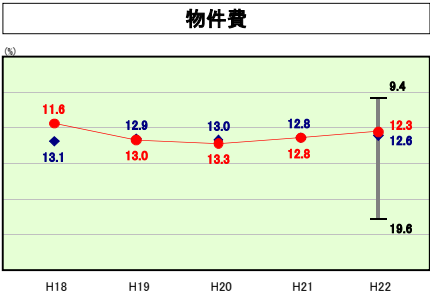
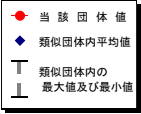
類似団体平均は下回っているが、引き続き給与体系の適正化に努める。

(4)-1 市町村経常経費分析表(普通会計決算)

経常収支比率の分析

人面	口数	170,969人	(H23.3.31現在)	実収	実支	赤字比率	-%
入出	総額	653.31千円		実績	実績	赤字比率	-%
歳入	総額	75,076,877千円		実績	公債費	比率	11.2%
歳出	総額	72,567,852千円		将来	負担	比率	36.6%
実収	支	1,131,729千円		市町村	類型	H18	Ⅳ-1
標準	財政規模	42,452,038千円		(年度毎)		H21	Ⅳ-1
地方債	現在高	78,267,544千円				H19	Ⅳ-1
						H20	Ⅳ-1
						H22	Ⅳ-1

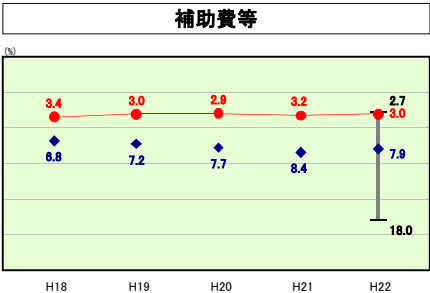
※ 市町村類型とは、人口および産業構造等により全国の市町村を35のグループに分類したものである。当該団体と同じグループに属する団体を類似団体と言う。



類似団体内順位 13/22 全国平均 12.8 宮崎県平均 11.6

物件費の分析欄

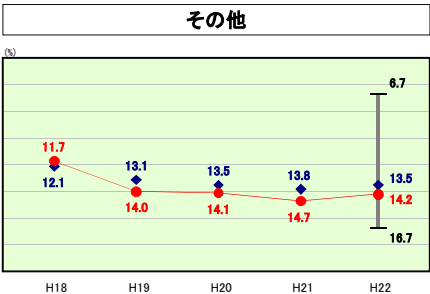
類似団体内でほぼ平均に位置してはいるが、今後民間委託等を進めていった場合、人件費から委託料(物件費)へシフトすることが考えられるため、引き続き経常的な物件費の圧縮に努める。



類似団体内順位 3/22 全国平均 10.1 宮崎県平均 7.5

補助費等の分析欄

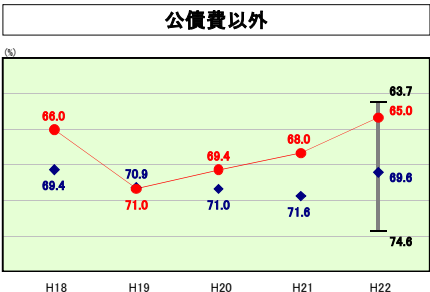
補助費等に係る経常収支比率が類似団体平均を下回っているのは、市町村合併により加入していた一部事務組合が解散したため、一部事務組合負担金等が減った影響である。今後は不適切な補助金の見直し、縮減等を通じてコスト削減を図る。



類似団体内順位 11/22 全国平均 11.8 宮崎県平均 11.5

その他の分析欄

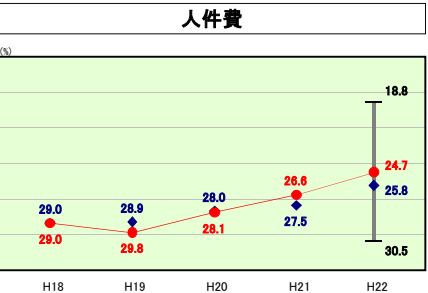
その他の経費に係る経常収支比率が類似団体平均を上回っているのは、繰出金の増加が主な要因である。介護保険特別会計や後期高齢者医療特別会計、簡易水道事業に係る繰出金が毎年度伸びている。一方で国民健康保険特別会計(事業勘定)への繰出金は、平成18年度から22年度までの5年間で約4億円の圧縮をしており、国民健康保険税や医療費の適正化に取り組んだ成果が表れている。また下水道事業についても平成23年4月に使用料改正を行う。今後も全ての特別会計等において、使用料等の確保、コスト削減等を通じて繰出金の抑制を図る。



類似団体内順位 4/22 全国平均 70.2 宮崎県平均 68.2

公債費以外の分析欄

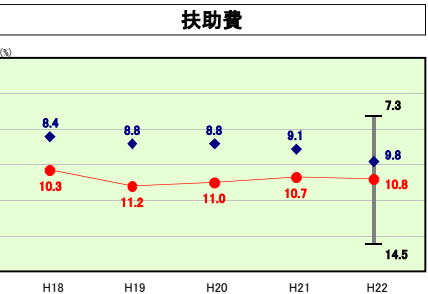
公債費以外の経費に係る経常収支比率は類似団体平均を下回っていることから、公債費の圧縮が今後の財政健全化に向けて課題であることがうかがえる。ただし今後大型事業推進のため多額の起債発行を予定していることから、投資事業計画の適正化等を通じ、さらに適切な地方債管理に努める。



類似団体内順位 10/22 全国平均 25.1 宮崎県平均 24.8

人件費の分析欄

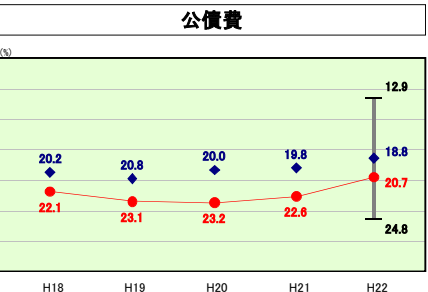
類似団体内でほぼ平均に位置しており、経年変化でも改善の傾向がみられる。職員数の適正化、民間委託等の推進等に取り組み、さらなる人件費の削減に努める。



類似団体内順位 17/22 全国平均 10.4 宮崎県平均 10.8

扶助費の分析欄

類似団体平均を常に上回っているものの、類似団体が毎年度上昇傾向にある中、平成19年度をピークに下降傾向がみられる。しかし平成21年度を境に上昇に転じており、今後も社会福祉費、児童福祉費、生活保護費を中心に増加するものと見込んでいる。各種審査の適正化、単独扶助費の見直しなどに取り組み、扶助費の適正化を目指す。



類似団体内順位 18/22 全国平均 19.0 宮崎県平均 21.2

公債費の分析欄

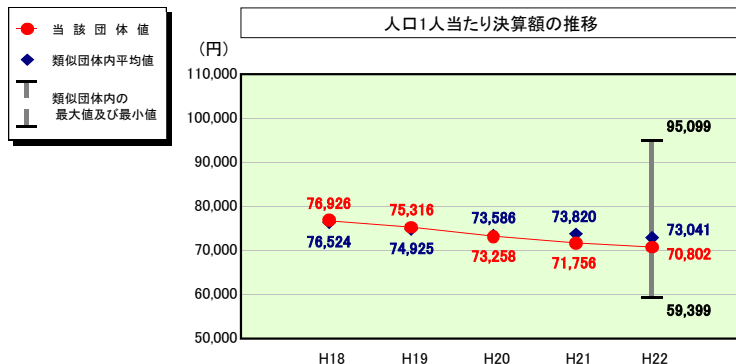
類似団体平均を常に上回っているものの、17年度末から22年度末の5年間にかけ起債残高を約111億9千万円圧縮した効果により平成20年度以降改善している。ただし、今後合併特例期間の後半期に入り合併特例債を活用した大型事業を予定しているため、公債費負担も平成28年度をピークに伸びていくものと見込んでいる。引き続き、繰上償還、投資事業計画の適正化を通じ、計画的な地方債管理に努める。

(4)-2 市町村経常経費分析表(普通会計決算)

平成22年度

宮崎県都城市

人件費及び人件費に準ずる費用の分析



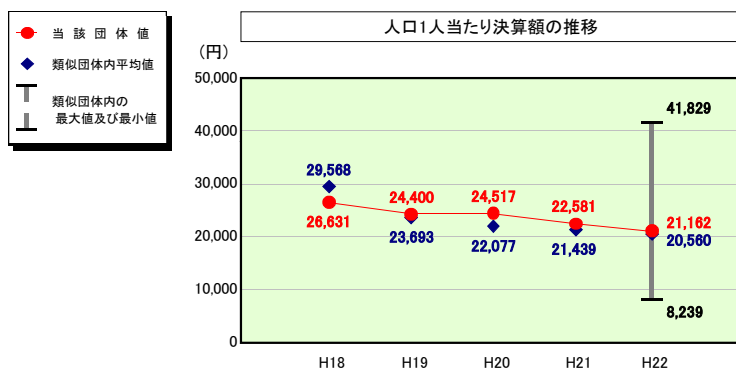
人件費及び人件費に準ずる費用

	当該団体決算額 (千円)	当該団体 (円)	人口1人当たり決算額 類似団体平均 (円)	対比 (%)
人件費	11,876,239	69,464	69,307	0.2
賃金 (物件費)	776,296	4,541	3,875	17.2
一部事務組合負担金 (補助費等)	205	1	3,373	▲ 100.0
公営企業 (法適) 等に対する繰出し (補助費等)	-	-	882	-
公営企業 (法適) 等に対する繰出し (投資及び出資金・貸付金)	-	-	0	-
公営企業 (法非適) 等に対する繰出し (繰出金)	576,322	3,371	2,631	28.1
事業費支弁に係る職員の人件費 (投資的経費)	185,717	1,086	1,461	▲ 25.7
▲退職金	▲ 1,309,858	▲ 7,661	▲ 8,488	▲ 9.7
合計	12,104,921	70,802	73,041	▲ 3.1

参考

	当該団体	類似団体平均	対比 (差引)
人口1,000人当たり職員数 (人)	7.85	7.43	0.42
ラスパイレース指数	97.7	99.1	▲ 1.4

公債費及び公債費に準ずる費用の分析

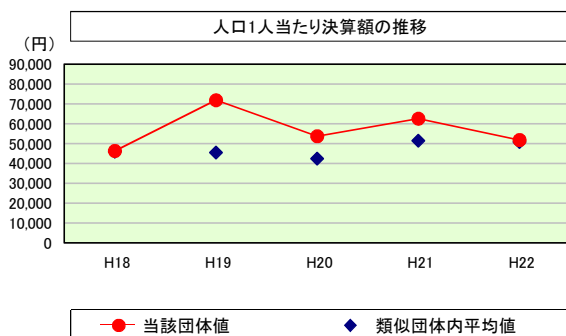


公債費及び公債費に準ずる費用 (実質公債費比率の構成要素)

	当該団体決算額 (千円)	当該団体 (円)	人口1人当たり決算額 類似団体平均 (円)	対比 (%)
元利償還金の額 (繰上償還額等を除く)	9,286,404	54,316	46,713	16.3
積立不足額を考慮して算定した額	-	-	20	-
満期一括償還地方債の一年当たりの元金償還金に相当するもの (年度割相当額)	-	-	41	-
公営企業債の償還の財源に充てたと認められる繰入金	1,590,053	9,300	13,318	▲ 30.2
一部事務組合等の起こした地方債に充てたと認められる補助金又は負担金に充当する一般財源等額	-	-	1,657	-
債務負担行為に基づく支出のうち公債費に準ずるものに充当する一般財源等額	135,808	794	1,989	▲ 60.1
一時借入金利子 (同一団体における会計間の現金運用に係る利子は除く)	-	-	16	-
▲特定財源の額	▲ 1,003,603	▲ 5,870	▲ 8,449	▲ 30.5
▲地方債に係る元利償還金及び準元利償還金に要する経費として普通交付税の額の算定に用いる基準財政需要額に算入された額	▲ 6,390,614	▲ 37,379	▲ 34,744	7.6
合計	3,618,048	21,162	20,560	2.9

※平成23年度中に市町村合併した団体で、合併前の団体ごとの決算に基づく実質公債費比率を算出していない団体については、グラフを表記しない。

(参考) 普通建設事業費の分析



普通建設事業費

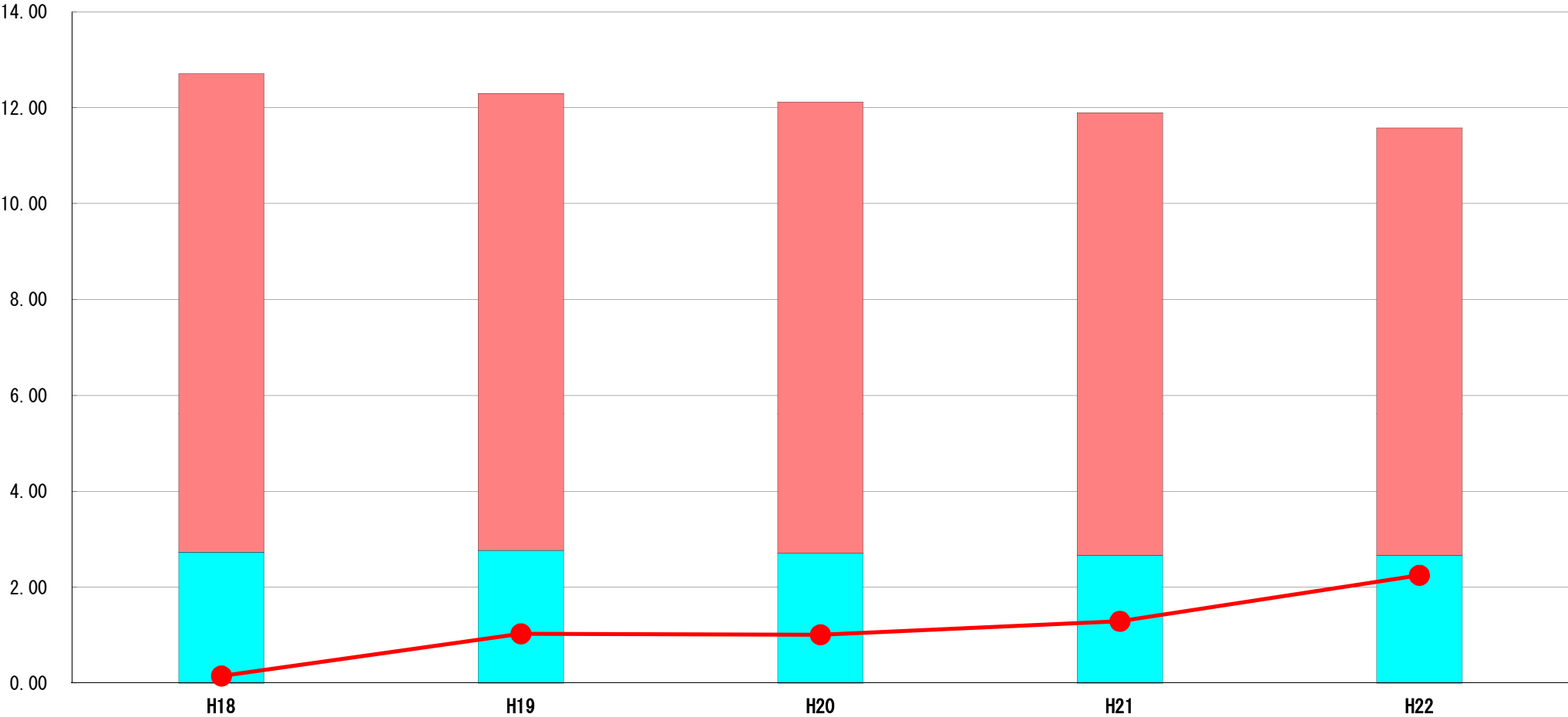
	当該団体決算額 (千円)	当該団体 (円)	増減率 (%) (A)	人口1人当たり決算額 類似団体平均 (円)	増減率 (%) (B)	(A)-(B)
H18	8,060,262	46,425	▲ 51.3	46,072	▲ 1.7	▲ 49.6
うち単独分	6,104,415	35,160	▲ 51.4	28,341	▲ 7.2	▲ 44.2
H19	12,431,599	71,975	55.0	45,614	▲ 1.0	56.0
うち単独分	8,035,797	46,524	32.3	28,729	1.4	30.9
H20	9,236,121	53,836	▲ 25.2	42,470	▲ 6.9	▲ 18.3
うち単独分	5,838,225	34,030	▲ 26.9	26,888	▲ 6.4	▲ 20.5
H21	10,746,379	62,659	16.4	51,540	21.4	▲ 5.0
うち単独分	7,892,648	46,020	35.2	32,621	21.3	13.9
H22	8,875,490	51,913	▲ 17.1	50,804	▲ 1.4	▲ 15.7
うち単独分	5,440,382	31,821	▲ 30.9	30,480	▲ 6.6	▲ 24.3
過去5年間平均	9,869,970	57,362	▲ 4.4	47,300	2.1	▲ 6.5
うち単独分	6,662,293	38,711	▲ 8.3	29,412	0.5	▲ 8.8

(5) 実質収支比率等に係る経年分析（市町村）

平成22年度

宮崎県都城市

標準財政規模比（％）



標準財政規模比（％）

区分	年度	H18	H19	H20	H21	H22
財政調整基金残高		9.98	9.53	9.41	9.23	8.91
実質収支額		2.73	2.77	2.71	2.67	2.67
実質単年度収支		0.15	1.03	1.01	1.29	2.25

分析欄

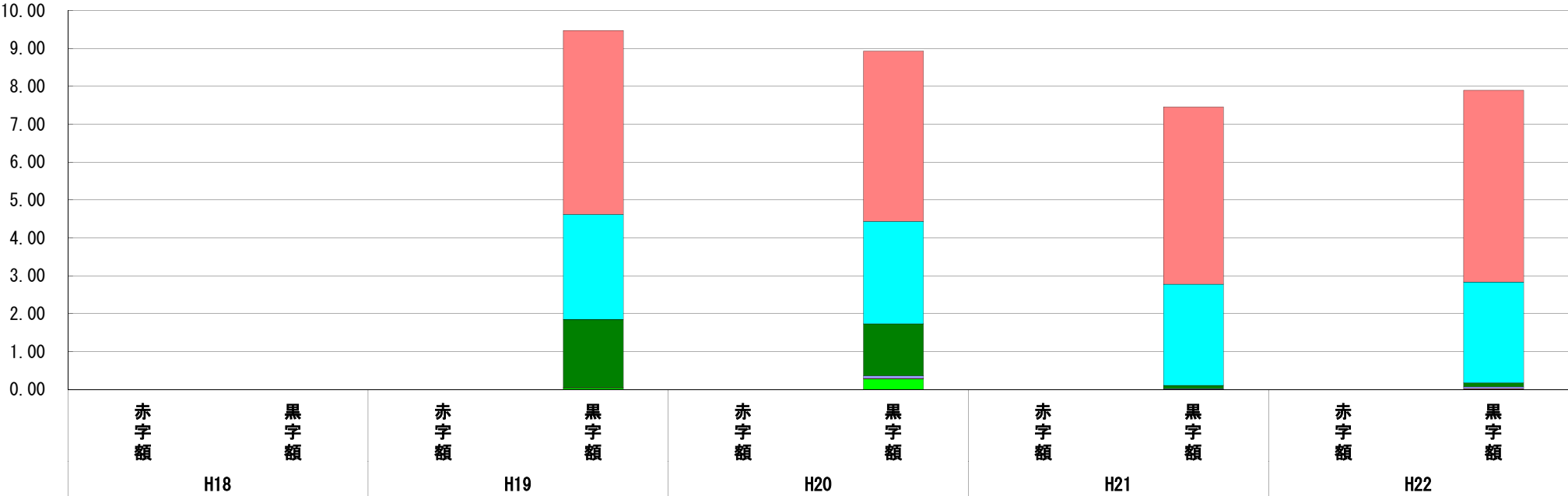
財政調整基金残高については平成18年度から22年度までの5年間、同規模の残高となっており、普通交付税や臨時財政対策債発行可能額の伸びの影響を受け標準財政規模が増加していることから、標準財政規模比でみると毎年比率が下がっている。実質収支額については毎年度ほぼ同じような比率を保っている。実質単年度収支については、積極的な繰上償還の実施を受け繰上償還額が毎年度増加しているため、比率が伸びているものである。

(6) 連結実質赤字比率に係る赤字・黒字の構成分析（市町村）

平成22年度

宮崎県都城市

標準財政規模比（％）



標準財政規模比（％）

年度		H18	H19	H20	H21	H22
会計						
水道事業会計		-	4.86	4.49	4.68	5.06
一般会計		-	2.77	2.71	2.67	2.67
国民健康保険特別会計（事業勘定）		-	1.80	1.37	0.09	0.10
後期高齢者医療特別会計		-	-	0.07	0.02	0.05
都城市電気事業特別会計		-	0.01	0.01	0.00	0.01
都城市簡易水道事業特別会計		-	0.00	0.00	0.00	0.01
都城市御池簡易水道事業特別会計		-	0.00	0.00	0.00	0.00
介護保険特別会計		-	0.04	0.28	0.00	0.00
その他会計（赤字）		-	-	-	-	-
その他会計（黒字）		-	0.00	0.00	0.00	0.00

分析欄

水道事業会計の構成比率が0.38%増えている。その要因は、水道事業会計剰余額の増(対前年度比+232百万円)である。なお、水道事業会計剰余額の増は、現金・預金の増額による流動資産の増(対前年度比+210百万円)、及び未収金の回収による流動負債の減(対前年度比▲19百万円)が挙げられる。
今後も、計画的な行財政改革を進め、健全な財政運営に努めるものである。

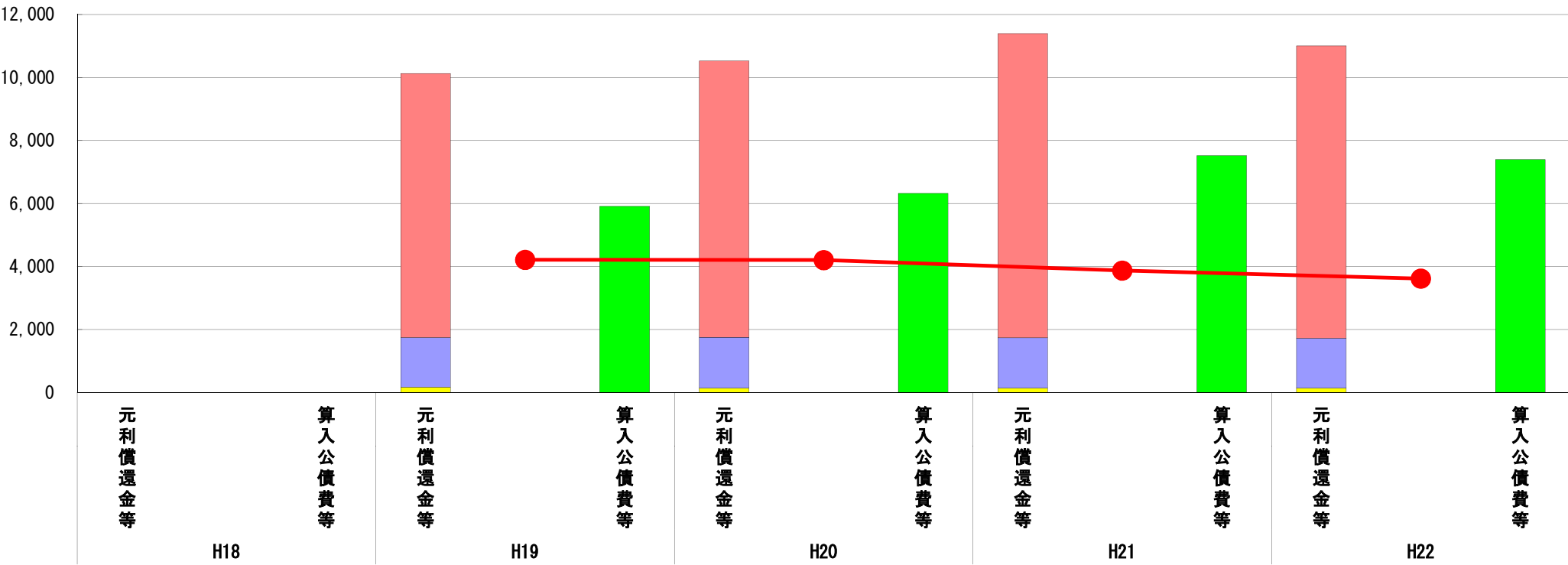
※平成23年度中に市町村合併した団体で、合併前の団体ごとの決算に基づく連結実質赤字比率を算出していない団体については、グラフを表記しない。

(7) 実質公債費比率（分子）の構造（市町村）

平成22年度

宮崎県都城市

(百万円)



(百万円)

分子の構造		年度	H18	H19	H20	H21	H22
元利償還金等 (A)	元利償還金		-	8,382	8,774	9,655	9,286
	積立不足額考慮算定額		-	-	-	-	-
	満期一括償還地方債に係る年度割相当額		-	-	-	-	-
	公営企業債の元利償還金に対する繰入金		-	1,577	1,614	1,607	1,590
	組合等が起こした地方債の元利償還金に対する負担金等		-	-	-	-	-
	債務負担行為に基づく支出額		-	171	143	136	136
	一時借入金利子		-	-	-	-	-
算入公債費等 (B)	算入公債費等		-	5,916	6,326	7,525	7,394
(A) - (B)	実質公債費比率の分子		-	4,214	4,205	3,873	3,618

分析欄

実質公債費比率の分子の減(対前年度比▲255百万円)の主な要因は、元利償還金の減額(対前年度比▲369百万円)が挙げられる。これは、計画的な償還を推進するとともに、新規の市債発行額を抑制した成果である。

※平成19年度決算と平成20年度決算の元利償還金は特定財源の額を控除しており、満期一括償還地方債に係る年度割相当額は積立不足額を考慮して算定した額を含んでいる。

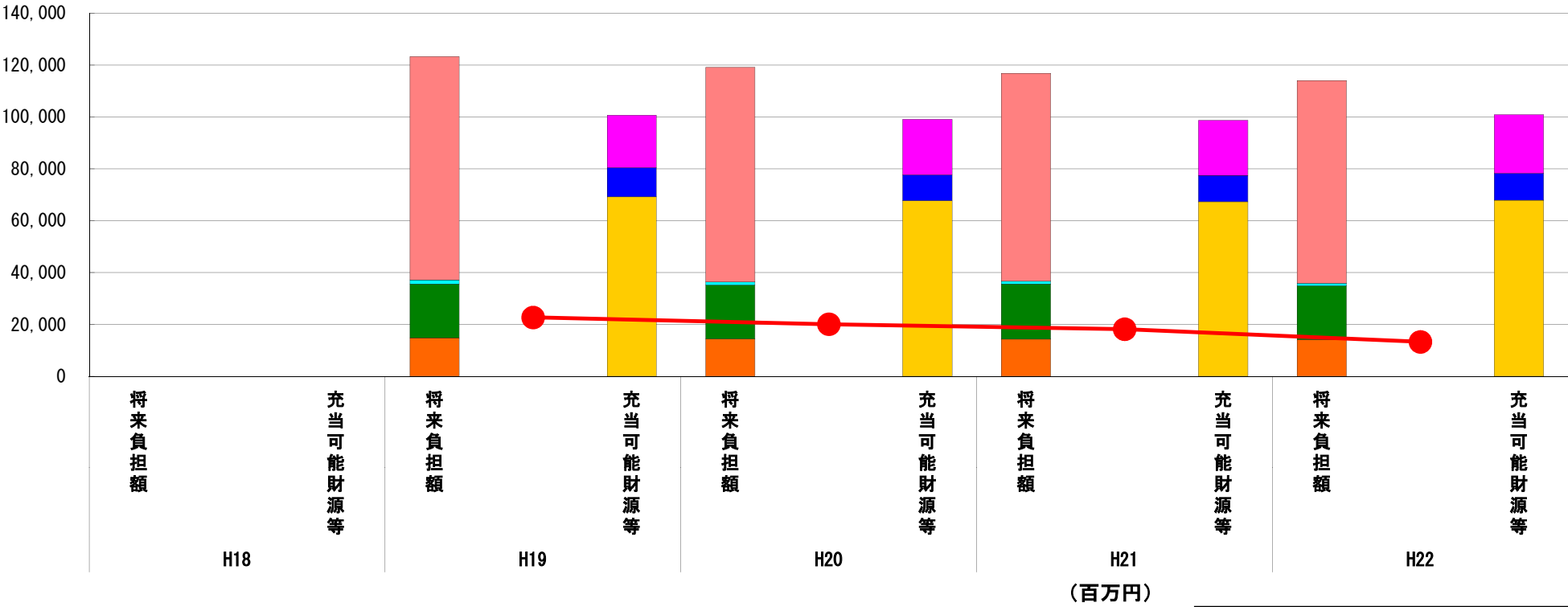
※平成23年度中に市町村合併した団体で、合併前の団体ごとの決算に基づく実質公債費比率を算出していない団体については、グラフを表記しない。

(8) 将来負担比率（分子）の構造（市町村）

平成22年度

宮崎県都城市

(百万円)



分子の構造		年度				
		H18	H19	H20	H21	H22
将来負担額 (A)	一般会計等に係る地方債の現在高	-	86,150	82,746	80,175	78,268
	債務負担行為に基づく支出予定額	-	1,528	1,241	1,122	1,005
	公営企業債等繰入見込額	-	20,826	20,660	21,236	20,718
	組合等負担等見込額	-	-	-	-	-
	退職手当負担見込額	-	14,752	14,439	14,258	14,094
	設立法人等の負債額等負担見込額	-	-	-	-	-
	連結実質赤字額	-	-	-	-	-
	組合等連結実質赤字額負担見込額	-	-	-	-	-
充当可能財源等 (B)	充当可能基金	-	20,258	21,415	21,226	22,686
	充当可能特定歳入	-	11,213	9,960	10,186	10,295
	基準財政需要額算入見込額	-	69,137	67,665	67,258	67,872
(A) - (B)	将来負担比率の分子	-	22,648	20,047	18,121	13,233

分析欄

将来負担比率の分子の減(対前年度比▲4,888百万円)の主な要因は、地方債現在高の減(対前年度比▲1,907百万円)と充当可能基金の増(対前年度比+1,460百万円)が挙げられる。

地方債現在高の減は、繰上償還を積極的に行うとともに、市債発行額を抑制したことによる。
○償還額 8,946百万円(うち繰上償還額921百万円)
○市債発行額 7,038百万円

充当可能基金の増は、将来の負担に備え、公共施設等整備基金(対前年度比+920百万円)及び減債基金(対前年度比+267百万円)などを増額したことによる。

※平成23年度中に市町村合併した団体で、合併前の団体ごとの決算に基づく将来負担比率を算出していない団体については、グラフを表記しない。